

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

台湾から来た 地域おこし協力隊



よう さいよう
楊 采蓉さん
台湾台北市出身
加美町在住
加美町地域おこし協力隊

—宮城県へいらしたきっかけは何でしたか。

台湾の大学を卒業後、一般企業で働きましたが仕事になじめず1年で辞めました。将来について思い悩んでいたときに、仙台で働いていた高校の同級生が、日本で生活して日本語を学んで将来を考えてみたらと勧めてくれたのです。それまで何度かパッケージツアーで日本を訪れ、日本語が話せたら地元の人と交流できるのと思っていたので、今ならチャレンジできる!と決心し、最初は1年間の語学留学の予定で、2018年4月から仙台の日本語学校で学ぶことになりました。

—仙台ではどんな日々でしたか。

まず、語学学習の面では仙台は私にとって最適な環境でした。学校には中国語を話す人が少なかったこともあり、入学当初は少ない日本語と英語で周りの人と意思疎通を図りました。もっと勉強したいと滞在を1年延長する頃には、日本での就職も考えていました。早く日本へ送り出してくれた両親に金銭的負担をかけるのが申し訳なく、アルバイトをしました。初めは英会話教室、次がコールセンターの中国語と英語対応のオペレーターでした。でも、ほぼ日本語での対応で、名前の聞き取りや尊敬語や謙譲語を使って会話することに常に不安を感じていました。「インターネットにつながらない」という言い方も人によって何通りもあり、たくさんの学びがありました。苦労した甲斐があったのか、2019年8月には日本語能力試験のN2、さらに同年12月の試験でN1に合格しました。

—加美町の地域おこし協力隊*になった経緯を教えてください。

卒業前の就職活動中も学校の先生、友人、知人、それに寮母さんが何かと気にかけてくれ地域おこし協力隊があることを教えてくださいました。調べたところ、県内にも募集があり、知人が電話でいくつかの自治体へ問い合わせしてくれました。「外国人はちょっと…」と断られたところもありましたが、加美町役場は「見学どうですか」と誘ってくれて、実際に町の様子を見ることができました。その後すぐに応募して、採用に至りました。

*地域おこし協力隊とは、地方自治体が都市地域からの移住者を「地域おこし協力隊員」として任命し、農業・漁業への従事、地域の魅力PR、お祭りやイベントの運営など、様々な地域協力活動を行いながらその地域への定住・定着を図る総務省の取り組み

—加美町の住人になっていかがですか。

自然豊かな加美町で春夏秋冬を過ごせて幸せです。仙台のわずかな積雪にももの足りなさを感じていたので、加美町で数十センチの雪が積もった時は大興奮でした。雪かきは想像していたより大変な作業でしたが、価値ある体験となりました。それに町民が雪かきのために外に出てくるので、知り合いが増えます。台湾



雪かき作業中の楊さん

出身で寒いところは苦手とされていますが、大丈夫。暑がりの私には、東北の気候が合っていると思います。

—お仕事の様子を教えてください。

働き始めてから、新型コロナウイルス感染症の影響で町内イベントも相次いで中止となりました。協力隊として観光(インバウンド)の振興を担当しているので、SNSでの情報発信や観光案内パンフレット用に火伏の虎舞や夏祭りなど加美町のイベントを中国語に翻訳しました。説明することはできますが、残念なことに私自身がまだ体験していません。3年間の任期が終了するまでになんとか体験したいと心から願っています。

町内の「スイーツファクトリー&カフェ ぐらん」(やくらい薬師の湯内)でレシビ提供など開発協力をしています。台湾カステラは好評をいただいています。実は台湾では屋台で買うような庶民のおやつなので、カフェのメニューにしたいの?と最初は半信半疑でした。最近では、台湾の定番スイーツ「豆花」を始めました。身体が温まる具材や生ピーナッツ入りでお勧めです。

公民館で台湾紹介講座もしました。台湾から来た地域おこし協力隊として私のことを知ってもらい、気軽に声をかけてもらえるようになりました。私はみなさんのことをなかなか覚えられなくて申し訳なく思うことも多いですが、台湾で会社員のままでいたら、こんな経験はできなかったと感謝しています。

—地域おこし協力隊の任期は2023年3月まで。ぜひやってみたいことはどんなことですか。

台湾料理教室の開催や翻訳のスキルアップをしたいです。それから、新型コロナウイルス感染症が落ち着いて人の行き来が活発になったら、外国人が町民の方々と交流しながら自然を満喫し、音楽を楽しんだりできるようなイベントを開催するなど、加美町のインバウンドをもっと充実させたいです。任期終了後は、加美町はもちろん大崎園や山形の尾花沢など東北の魅力を海外に伝える橋渡しをしていきたいと考えています。

楊采蓉さんが登壇する「多文化共生シンポジウム」が1月30日に開催されます。詳細はP2の@mIAのコーナーをご覧ください。

「みやぎ外国人相談センター」から

みやぎ外国人相談センターに寄せられた相談事例を紹介します。

Q 新型コロナウイルス感染症による経営状態悪化を理由に、一方的に仕事を解雇されました。加えて、先月分の給料が未払いです。何か支援を受けることはできるのでしょうか。

A 労働に関することは、宮城労働局への相談が解決につながると思われます。労働局とは、労働に関する相談の受付を行っている国の機関で、法律に基づいて必要なアドバイスをしてくれるところです。多言語で相談できる電話相談窓口がある他、相談者が労働局の窓口で相談する場合は、必要に応じてMIAの通訳サポーターの紹介も行います。

◆外国人労働者相談コーナー《宮城労働局》

TEL : 022-299-8838 (中国語、ベトナム語共通)
〈中国語〉対応日時：月、火、木／9:30～17:00
〈ベトナム語〉対応日時：火、水、金／9:00～16:30
※いずれも12:00～13:00は除く
※相談対応日は変更になる場合があります。

◆新型コロナウイルス感染症特別労働相談窓口《宮城労働局》

TEL : 022-299-8844
〈日本語のみ〉対応日時：8:30～17:15
※土日祝日、年末年始を除く

◆外国人相談者向け相談ダイヤル《厚生労働省》

10:00～15:00 ※12:00～13:00は除く
※開設曜日と電話番号は言語によって異なります。詳しくは
URL : <https://www.check-roudou.mhlw.go.jp/soudan/foreigner.html>をご確認ください。
〈英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語、ミャンマー語、ネパール語、韓国語、タイ語、インドネシア語、カンボジア語(クメール語)、モンゴル語〉

みやぎ外国人相談センター

TEL 022-275-9990

- 月曜日～金曜日 9:00～17:00
- 対応言語：中国語、韓国語、英語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語、日本語

参加者募集!

多文化共生シンポジウムin加美 ～多様な人材が支える地域の未来～



多文化共生について理解を深めることを目的とした宮城県主催のシンポジウムが、今年度は加美町で開催されます。チリ出身の国際交流員、台湾出身の地域おこし協力隊員、町内企業に勤めるベトナム出身の技能実習生、そして、そうした外国人を支える市民団体の方といった多様な人たちの声に耳を傾けて、これからの地域づくりについて考えてみませんか。

◎日時

2022年1月30日(日) 13:00～14:50

◎場所

中新田バツハホール(加美郡加美町一本杉101)

◎主催

宮城県、宮城県人権啓発活動ネットワーク協議会

◎共催(予定)

加美町、加美町国際交流協会、
(公財)宮城県国際化協会

◎定員

100人(予定)

◎お申込み・お問合せ

・宮城県経済商工観光部国際政策課
TEL : 022-211-2972 FAX : 022-268-4639
E-mail : kokusaik@pref.miyagi.lg.jp
・加美町ひとしごと推進課(加美町国際交流協会事務局)
TEL : 0229-63-5611 FAX : 0229-63-2037
E-mail : hito-shigoto@town.kami.miyagi.jp

◎内容(予定)

- ・現状報告 宮城県
- ・基調講演 加美町スポーツ推進室
国際交流員
カタリーナ サラビア氏
(チリ出身)

- ・パネルディスカッション
「地域を支える外国人と考える
これからの加美町」

パネリスト

加美町国際交流協会会長 今藤 紀雄 氏
加美町国際交流員 カタリーナ サラビア 氏
加美町地域おこし協力隊 楊 采容 氏(台湾出身)
旭興業(株)技能実習生
グエン ヴァン ティ 氏(ベトナム出身)
コーディネーター
宮城県国際化協会総括マネージャー 大泉 貴広
・講評 加美町長 猪股 洋文 氏



基調講演をする
カタリーナさん

※シンポジウム終了後に、火伏の虎舞や和太鼓体験を交えた町内在住の外国人との交流も予定されています。

MIA国際理解教育支援事業 ～オンライン編～



MIAでは、地域における国際理解教育の推進を目的として、県内在住の外国人講師との交流の機会を、小・中学校、高等学校の児童生徒や生涯教育団体などを対象に、オンラインで提供しています。10月は以下の2校との交流を行いました。

【仙台市立仙台高等学校 2年生】

ラオス出身のチップソンさん、パキスタン出身のハンナンさんが講師となり、出身国について、食べ物、街や自然などの写真を紹介しながら「これは何だと思えますか?」と生徒への問いかけも交えてお話していました。生徒からは「ラオスのきれいな写真に魅了され、この目で見てみたいと思った」「パキスタンの自然や食文化の素晴らしさを知り、行ってみたいくなった」などの感想が聞かれました。



仙台市立仙台高等学校

【宮城県佐沼高等学校 英語部】

この日の講師はブラジル出身のマリナさん、ニカラグア出身のリリアンさんでした。マリナさんは、ブラジルの都市や観光地等について美しい写真とジョークを交えながら、一方リリアンさんはニカラグアの音楽など、動画を使って紹介しました。たくさんの方が踊っている様子を見た生徒から「ニカラグアの人みんなダンスを踊れるのですか?」と質問が飛び出すと、「はい!音楽を聴くと、体が勝手に動きます!」と実際に踊って見せる場面も。生徒は、講師のパワフルさに驚いた表情を見せながら、交流を楽しんでいました。

MIA国際理解教育支援事業では、オンラインプログラムの実施校・団体を募集しています。詳細については、以下をご確認ください。

MIA 国際理解 <https://mia-miyagi.jp/kokurikyo.html>

MIA日本語講座だより おしゃべりの時間

MIA日本語講座では、テキストを使った学習のほかに学習者が日本人と会話をする時間を設けています。以前は、MIA日本語サポーターに参加していただき、飲み物を片手にリラックスした雰囲気でお話を楽しみましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、MIA日本語講座の先生方とMIAのスタッフがおしゃべりの相手を務めました。

初級1クラスは、普段接している先生が相手だとわかってはいても、心配で前夜から緊張していた学習者もいました。スマホで検索した単語や画像を先生に示しながらコミュニケーションを図っている様子も見られました。終了後、みなさんのホッとしたようなスッキリしたような表情が印象的でした。

初級2クラスでは、「ストレス」をテーマとしておしゃべりをしました。温暖な地域出身者からは寒さが辛いこと、子育て世代からは育児に追われる日々で周りの人や社会から取り残されていると孤独感を感じることなどの話題がありました。学習者のひとり、王珏さん(中国出身)は、夫と県内の各地へドライブすることで「移動時間が長くても二人だけなので周りに気をを使うことがなく、ストレスフリーです」。それと「MIAでクラスメイトに会って、話ができることが何よりのストレス解消になっています」とのことです。



おしゃべりの時間の様子

また11月上旬の日本語講座閉講式の日もおしゃべりの時間があり、みなさん笑顔で、笑い声があふれていました。講座で学んだことを活かし、これからもいろいろな人とおしゃべりを楽しんでください。

みやぎの国際活動団体(DIRECTORY)

当協会HP「県内の国際活動団体一覧」では、県内の国際交流、国際協力・支援や多文化共生に携わる団体を紹介しています。これは団体や関係機関をネットワークングすることにより、それぞれの活動がより有機的なものとなるよう作成したものです。活動内容に基づいて6つのカテゴリーに分けています。

- ①県内市町村国際交流協会 ②親善交流を主たる目的とする団体
③特定の国や地域との親善交流を主たる目的とする団体 ④国際協力や支援を主たる目的とする団体
⑤在住外国人が主たる会員の活動団体 ⑥その他・在住外国人相談支援活動団体

(公財)仙台観光国際協会/SenTIAとMIAが年に1回協働で収集した情報を更新し、現在200余りの団体を掲載しています。また、主に仙台市内を活動拠点とする団体についてはSenTIAのHP「国際交流・国際協力団体検索サイト」の情報が表示されます。随時、会員を募集している団体もありますので、興味ある団体がありましたら、直接団体へ連絡してください。

MIA 県内の国際活動団体一覧

「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイドブック 宮城 2021」

この進路ガイドブックは、外国人の子どもと保護者を対象に日本の教育制度や高等学校の種類、授業料や奨学金制度と県内公立高校入試制度について多言語（英語、中国語、韓国語、タガログ語、スペイン語、日本語）で紹介しているものです。

ガイドブックはWebサイトからダウンロードすることができます。郵送をご希望の方は、MIAまでお問い合わせください。

また、ガイドブックを基に分かりやすくまとめたパワーポイントや動画も公開していますので、併せてぜひご覧ください。



進路 宮城 ガイドブック 検索



みやぎの国際活動団体

国際交流協会わたり(亶理町)2002年設立 会長 渡辺愛子さん

国際理解・相互理解を深めることを目的として、在住外国人と地域住民との交流の機会を提供したり在住外国人のサポートのために「わたり楽しい日本語講座」を開設したりと、さまざまな取り組みを行っています。外国人講師をお迎えして料理教室、異文化交流会、国際交流フェアなども行ってきましたが、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大により以前のような交流が難しくなったため、まずは、亶理町発祥の郷土料理「はらこめし」を多言語の字幕付きの映像で紹介することにしました。

講師は、亶理町食生活改善推進員協議会（ヘルスメイト亶理）の副会長で絶品はらこめしの作り方を広めている岡崎由紀子さんに依頼しました。当協会の会員も作る機会が多いのですが、今回新たに知ったコツがたくさんあり、できあがりのおいしさに感動しました。

動画に登場しているエジプト出身のハゼムさんは、自身も料理好きとのことで、火の通り具合などを質問し、また調理や盛つけも体験されました。イタリア出身のダヴィデさんには、彼のYouTubeチャンネルにもイタリア語の字幕付きでアップしていただきました。今後さらにベトナム語などでも配信の予定です。

これからも色々なテーマで、地域の魅力を世界に発信していければと思っています。



はらこめし作りのコツを教わる会員

検索

Youtube 日本語：地元名人のはらこめし
英語：BEST AUTHENTIC Harakomeshi
イタリア語：Vivi Giappone Harakomeshi

サポーターの声

特別編 歯科ナチュール 院長 佐藤毅 様

これまで「サポーターの声」欄では、通訳サポーターの声を取り上げてきましたが、今回は通訳サポーター紹介制度をご利用いただいた医療機関の方にお話を伺いました。

ネパール人女兒が予防歯科で来院することになり、Zoomを使って通訳していただきました。

わたし自身、ネパール語はできませんし、いらっしゃるネパール人の親子も不安だったでしょうから、非常に心強かったです。当日患者様にお渡りする資料やどんな話をするかを簡単にまとめて事前に通訳サポーターにご提示しました。通訳サポーターが現場にいてくれたらもっと寄り添うように対応できたかなとも思いましたが、こんなご時世ですからいたしかたないところですし、通訳をされたバワニさんは事前資料をしっかりと読んでくださっていたようで、スムーズでした。通訳サポーターはいわば当院の「第2のスタッフ」です。一緒に患者様に対応でき、とても良い経験となりました。日本という異国で医療に困っている患者様と私たち医療従事者との間の言葉の壁を取り払うべく活動されている皆様には感謝の気持ちでいっぱい。是非また利用させていただきたいと思います。



バワニさん談 事前に資料をお示しただけだったのでしっかり準備ができました。また、佐藤先生はゆっくり分かりやすくお話しいたでき、通訳しやすかったです。わたしも歯医者さんにお世話になるときは佐藤先生のところに行きたいなと思ったぐらいです。

■ 歯科ナチュール 仙台市宮城野区宮城野 1-1-2-2F

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎ 協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
- ◎ 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎ 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)
- ◎ 企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎ 本協会あて御連絡ください。
◎ 本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.118

編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp

